



FIAT DOBLÒ

現車確認

競合車比較確認 <スタイル/ユーティリティ>

モータージャーナリスト 山本シンヤ



モータージャーナリスト
山本 シンヤ

日本・カー・オブ・ザ・イヤー 選考委員

ワールド・カー・アワード 選考委員

日本自動車ジャーナリスト協会会員

1. DOBLO HISTORY
2. イタリアでの活躍と実績
3. なぜ今 輸入MPVが熱いのか！
4. DOBLOのスタイル
5. 競合車比較

KANGOO

BERLINGO/RIFTER

NISSAN SERENA

TOYOTA SIENTA

1. DOBLO HISTORY

2. イタリアでの活躍と実績

3. なぜ今 輸入MPVが熱いのか！

4. DOBLOのスタイル

5. 競合車比較

KANGOO

BERLINGO/RIFTER

NISSAN SERENA

TOYOTA SIENTA

DOBLO HISTORY



2000

- ・人気の小型商用車『Fiorino（フィオーリーノ）』をヒントにより快適かつ楽しいモデルとしてデビュー
- ・ドライブの楽しさと利便性の高さ、購入しやすい価格設定によって多くのファンを獲得
- ・乗用車と商業車をラインアップ



2005

- ・現代的かつスタイリッシュなデザインにマイナーチェンジ
- ・2006年“インターナショナルバンオブザイヤー”を受賞



2010

- ・2代目Dobloは、より直線的でボクシーなスタイルに変化
- ・貨客両用の「コンビ」貨物用の「カーゴ」ピックアップトラックなどさまざまな仕様をラインアップ
- ・それぞれにショートボディーとロングボディーを設定するなど多彩なバリエーションが用意された



2015

- ・より洗練されたデザインにマイナーチェンジ
- ・英国プレミア タイトルが開催した“What Van? Awards”において2016年から3年連続で“ライトバンオブザイヤー”に選出



2023 日本初上陸

- ・ **利便性/快適性/高いユーティリティ/広いラゲッジなど**
歴代DobloのDNAを受け継ぎながらよりスタイリッシュに進化
- ・ **5人乗りと7人乗りを設定**

DOBLO HISTORY



2000年
イタリアで初代DOBLO誕生

1977～
郵便局などで活躍した
小型商用車『Fiorino』



2005年 マイナーチェンジ
“インターナショナル バン オブ ザ イヤー”2006を受賞



2010年 2代目Doblo

ショートとロングなど多彩なバリエーション



2015年 マイナーチェンジ

英国 “What Van? Awards” 3年連続 “ライトバン オブ ザ イヤー”



1. DOBLO HISTORY

2. イタリアでの活躍と実績

3. なぜ今 輸入MPVが熱いのか！

4. DOBLOのスタイル

5. 競合車比較

KANGOO

BERLINGO/RIFTER

NISSAN SERENA

TOYOTA SIENTA

プロフェッショナルカー DOBLO 2014-2018



DOBLO Cargo 2015



Polizia



conversione Ufficio Mobile per Polizia
proposto da Elevox 2015



Ambulanza



conversione Trasporto Ambulanza
proposta da Orion 2015

Taxi



conversione Taxi proposta da Olmedo 2015

Spagna



I Veicoli Commerciali Fiat per
la flotta Pepsi-Cola in Spagna 2005



Belgium



Una flotta di Nuovo Doblò Cargo
per la Coca-Cola Enterprises Belgium 2010







e-DOBLO



2015 DOBLO



1. DOBLO HISTORY
2. イタリアでの活躍と実績
3. なぜ今 輸入MPVが熱いのか！
4. DOBLOのスタイル
5. 競合車比較

KANGOO

BERLINGO/RIFTER

NISSAN SERENA

TOYOTA SIENTA

輸入MPVユーザー “カーライフスタイル”

KANGOO



写真：ルノー・ジャパン公式サイト

RIFTER



BERLINGO



1. DOBLO HISTORY
2. イタリアでの活躍と実績
3. なぜ今 輸入MPVが熱いのか！
4. DOBLOのスタイル
5. 競合車比較

KANGOO

BERLINGO/RIFTER

NISSAN SERENA

TOYOTA SIENTA



欧洲仕様車



欧州仕様車

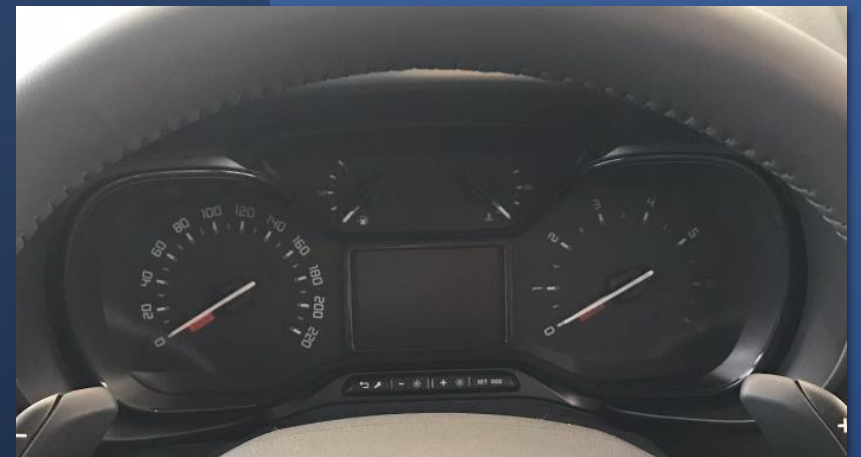


DOBLO MAXI



	全長 mm	全幅 mm	全高 mm	ホイールベース mm	最小回転半径 m
DOBLO	4,405	1,850	1,800	2,785	5.6
DOBLO MAXI	4,770 +365	1,850	1,870 +70	2,975 +190	5.8

コックピット



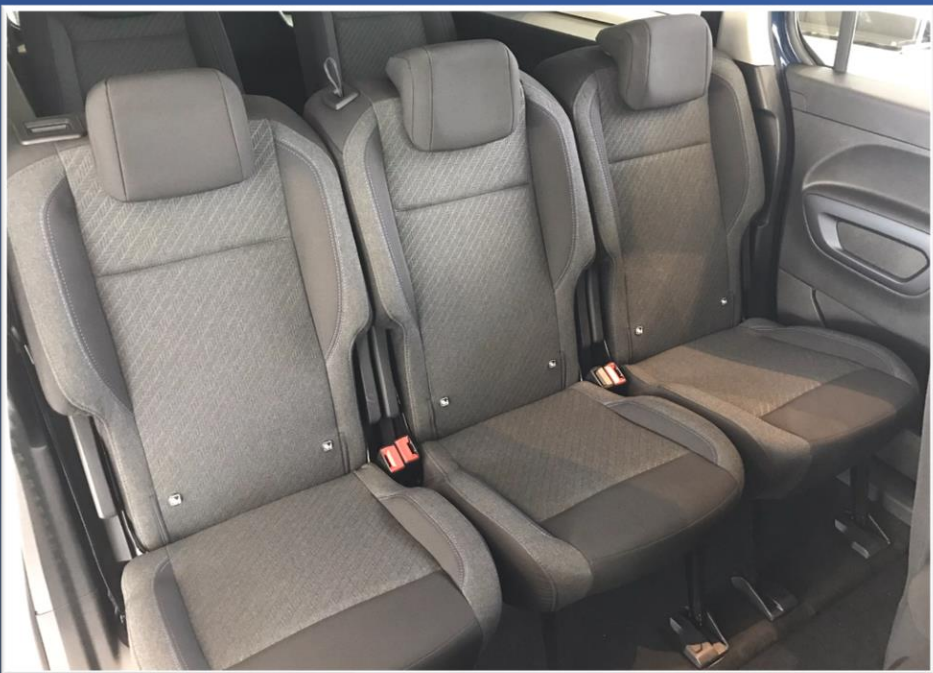
フロントシート

欧州仕様車

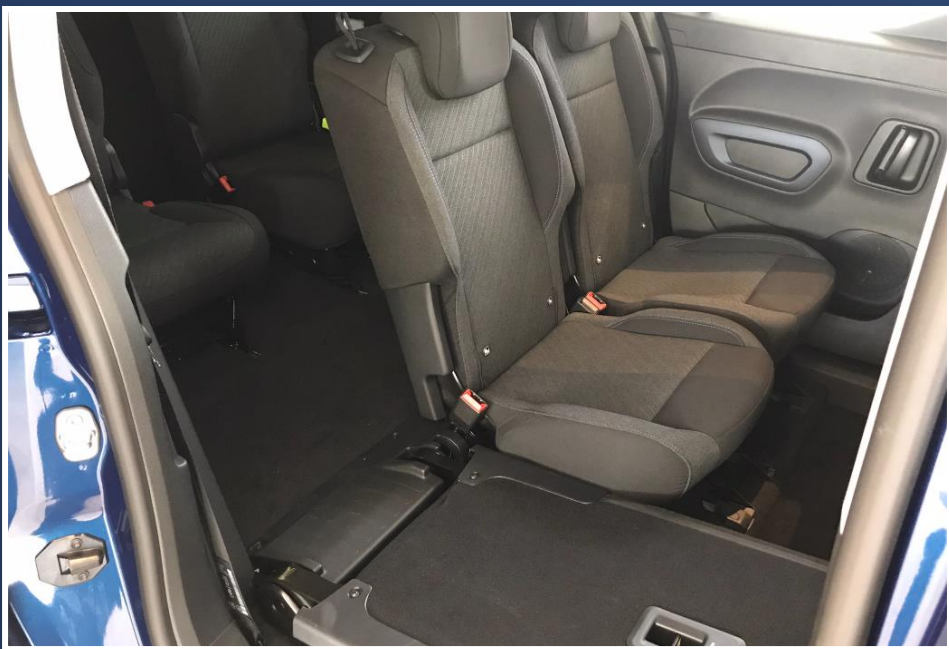
助手席可倒式

DOBLO : 2.7m

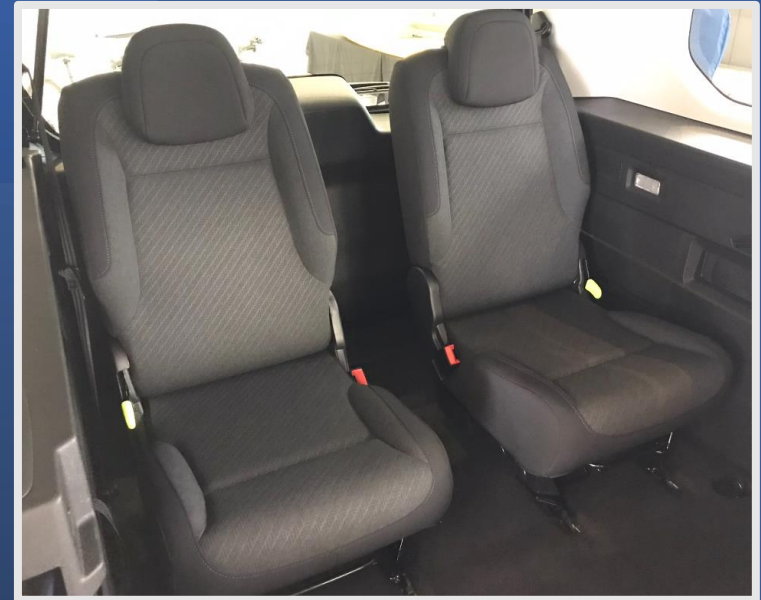
DOBLO MAXI : 3.06m



2列目 3席独立シート



MAXI 3列目 2席独立シート



リアオープニングガラスハッチ

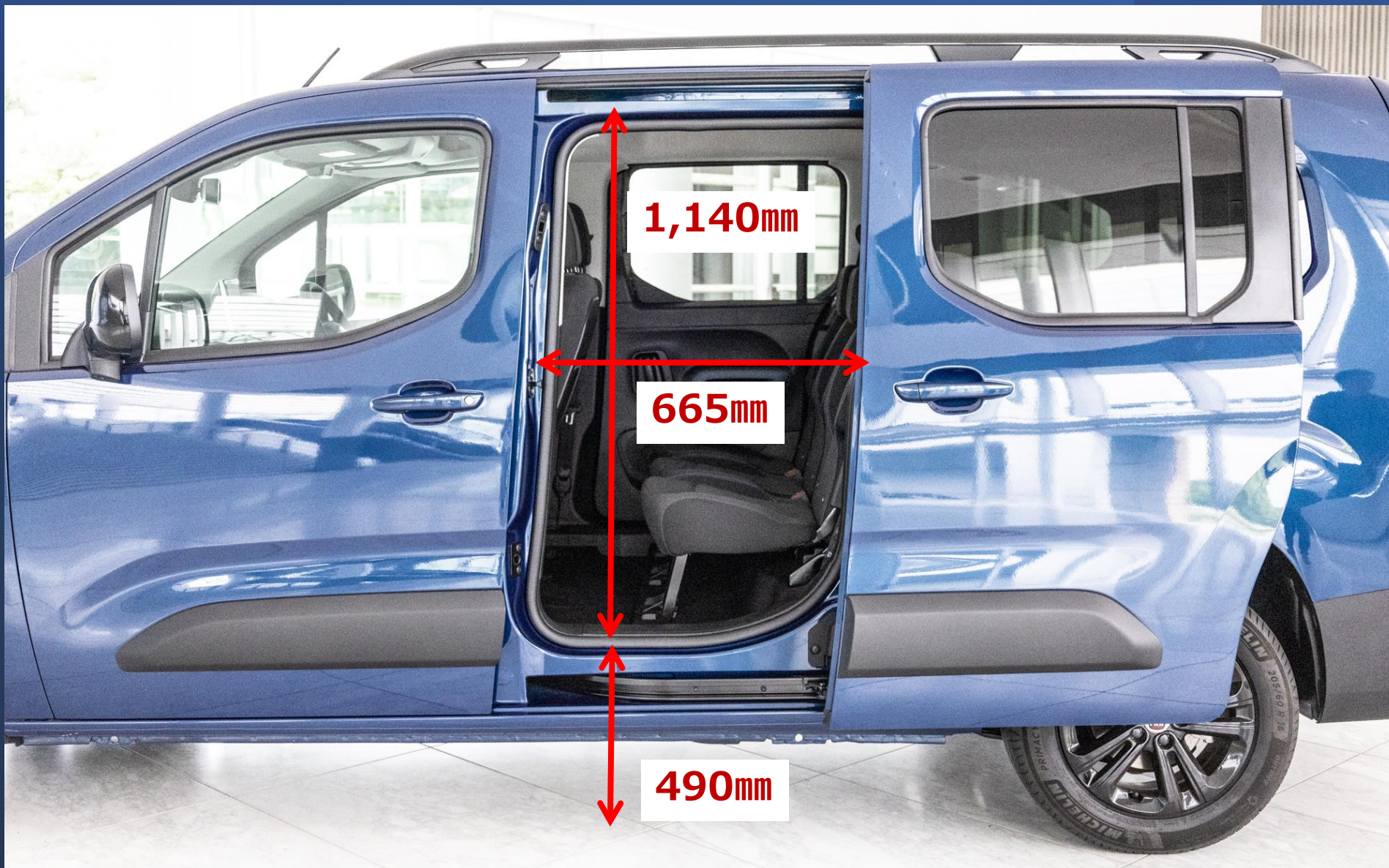


欧州仕様車

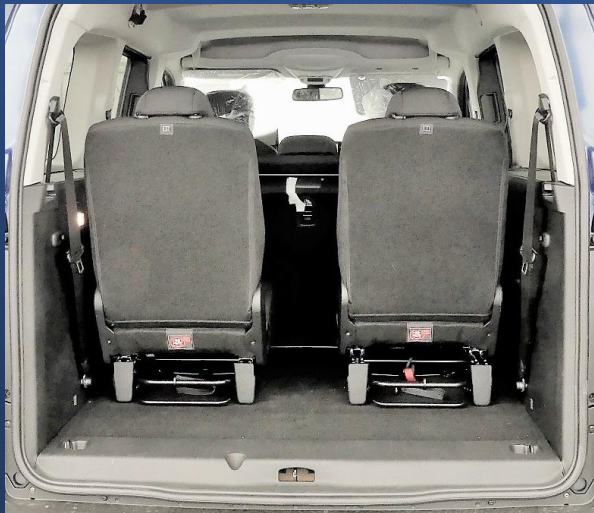


★ 操作ボタン

スライドドア



MAXI ラゲッジ



① 3列目 定位置



② 背もたれを倒した状態



③ 折りたたんだ状態



④ 取り外した状態

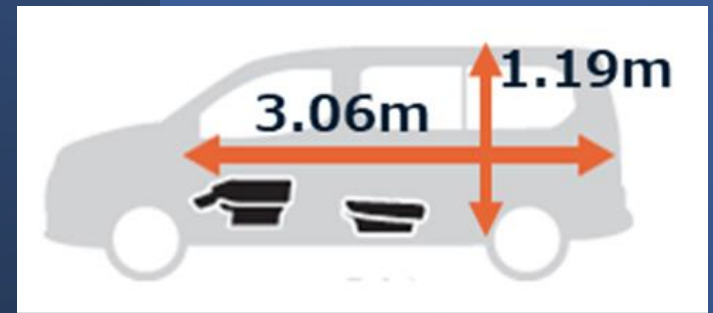


⑤ 2列目左席を倒した状態

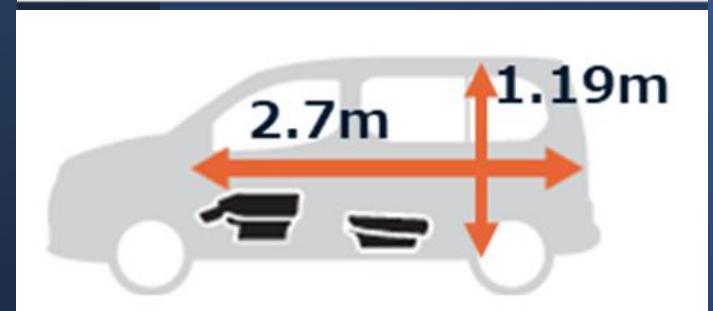


⑥ 2列目3席を倒した状態

DOBLO MAXI



DOBLO



**VDAとは
大多数のメーカーが採用する
国際的な計測方式**



DOBLO



DOBLO MAXI



DOBLO MAXI 自転車積載

3列目撤去 2列目全席を倒して積載



3列目左のみ撤去 2列目左を倒して積載



DOBLO 自転車積載

2列目全席を倒して積載



2列目そのままラゲッジ内に積載



DOBLO MAXI 3列目を撤去して3mのSUPを積載

A: 2列目左と中&助手席を倒して積載



B: 2列目中と助手席を倒して積載



DOBLO MAXI

2列目真ん中を倒して、ウォークスルーに180cmのスキー板を積載



DOBLO MAXI

3 mのフィッシングカヤックを積んで釣りの準備中



DOBLO MAXI ラゲッジでくつろぐ





DOBLO & DOBLO MAXI

テールゲートで
日陰を作って
ランチタイム

多彩な収納スペース



1. DOBLO HISTORY
2. イタリアでの活躍と実績
3. なぜ今 輸入MPVが熱いのか！
4. DOBLOのスタイル
5. 競合車比較

KANGOO



BERLINGO/RIFTER



NISSAN SERENA



TOYOTA SIENTA



輸入車MPV



**Mercedes-Benz
V-Class**



BMW2 アクティブ ツアラー



VW Golf Touran



**CITROËN
GRAND C4 SPACETOURER**

Renault KANGOO



INTENS



CREATIF

Renault KANGOO



モータージャーナリスト 山本シンヤ
日本・カー・オブ・ザ・イヤー 選考委員
ワールド・カー・アワード 選考委員

プロフィール

- ・1960年代からルノーのラインアップにあった乗用車（ハッチバック）をベースにボディ後半に箱を追加したような貨物車ではなく、独立したモデルとして開発。
- ・現行モデルは3代目。歴代モデルの強みを継承しながら、基本素性の刷新、内外装の質感・品質向上、装備の充実など、上級志向が行なわれている。
- ・エクステリアは最新のルノーデザインをモノフォルムで上手に表現され、スマートでダイナミックな印象で商用車感は減っている。日本でのカンクー人気から日本仕様のみのグレード（ブラックバンパー＆鉄ホイール仕様）も設定。
- ・インテリアはボディサイズ拡大による居住空間向上に加えて、デザイン・質感は大幅に向上。フル液晶メーターやインフォテインメントシステム、運転支援システムなど、先代モデルで大きな課題だった装備類は充実。
- ・パワートレインはガソリンが1.3Lターボ（ルノー／日産／三菱アライアンスとダイムラーの共同開発）、ディーゼルは先代から採用される1.5Lターボの二本立てで、7速のツインクラッチ式2ペダルMTを組み合わせ。
- ・シャシー周りはルノー／日産／三菱アライアンスで開発された最新プラットフォーム「CMF-CD」を採用。
- ・基本素性の刷新により一体感のあるハンドリングと乗り心地のバランスがアップしたが、先代で感じられた古き良きフランス車のようなソフトなタッチは薄れている。

**総合的に見ると確実に正常進化しているが、従来モデルと比べるとフランス車らしさは薄れてしまった感も否めない。
ただ、逆の見方をすれば「ターゲットカスタマーをより広げたカンクー」と言える。**

POINT

- ・ 1997年初代が登場 2002年日本に導入
2020年第3世代のモデルを本国で発表
2023年3月 3代目となる新型の日本デビュー
- ・ 日本専用仕様CREATIFと落ちついたセンスのINTENSの2タイプ
- ・ 選べる2種類のパワートレイン 1.3Lガソリン/1.5Lディーゼル
- ・ 2列シート5人乗りのみの設定
- ・ ダブルバックドア（観音開き）と広いラゲッジが人気
- ・ LEDヘッドライト/運転支援など新しい機能も充実
- ・ 運転モード：ノーマル/ エコ/ペルフォ（パフォーマンズ）の3モード



価格比較

	5人乗り	7人乗り
DOBLO 	DOBLO 1.5 ℓ ディーゼルエンジン ¥ 3,990,000	DOBLO MAXI 1.5 ℓ ディーゼルエンジン ¥ 4,290,000
KANGOO 	1.5 ℓ ディーゼルエンジン ¥ 4,190,000 1.3 ℓ ガソリンエンジン ¥ 3,950,000	

※税込み車両価格

デザイン比較



CREATIF



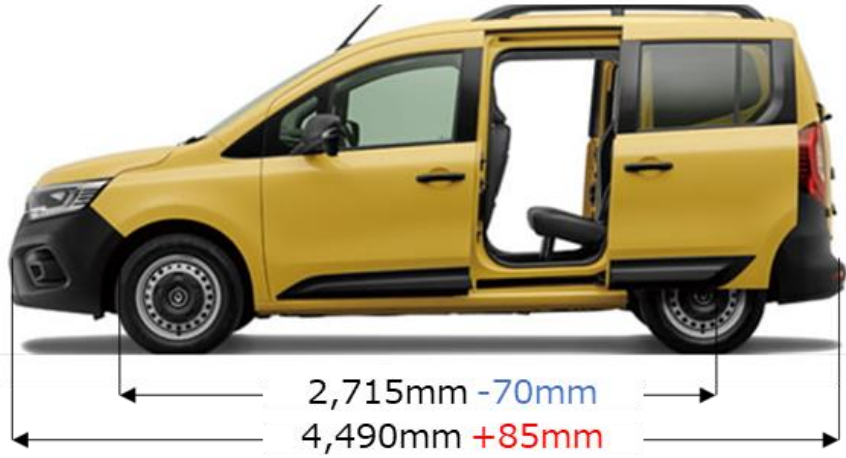
INTENS



欧州仕様車

ボディサイズ比較

DOBLO



車種	全長 mm	全幅 mm	全高 mm	ホイールベース mm	車重 kg	最小回転半径 m
----	-------	-------	-------	------------	-------	----------

KANGOO
1.5ℓディーゼルエンジン車

4,490	1,860	1,810	2,715	1,650	5.6
-------	-------	-------	-------	-------	-----

DOBLO	4,405	-85	1,850	-10	1,800	-10	2,785	+70	1,560	-90	5.6	±0
-------	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-----	----

DOBLO MAXI	4,770	+280	1,850	-10	1,870	+60	2,975	+260	1,660	+100	5.8	+0.2
------------	-------	------	-------	-----	-------	-----	-------	------	-------	------	-----	------

DOBLOも DOBLO MAXIも 街中のパーキングを利用しやすい

立体機械式・自走式・平置き全て制限サイズ クリア



	立体機械式駐車場	立体自走式駐車場	平置コインパーキング
長さ	○ 5,000mm	○ 5,000mm	○ 5,000mm
横幅	○ 1,850mm	○ 1,900mm	○ 1,900mm
高さ	○ ハイルーフ車 2,000mm	○ 2,000mm	○ 1,900mm

	DOBLO	DOBLO MAXI
全長	4,405mm	4,770mm
全幅	1,850mm	1,850mm
全高	1,800mm	1,870mm

ボディサイズ比較



車種	全長 mm		全幅 mm		全高 mm		ホイールベース mm		車重 kg		最小回転半径 m	
KANGOO 1.5ℓディーゼルエンジン車	4,490		1,860		1,810		2,715		1,650		5.6	
DOBLO	4,405	-85	1,850	-10	1,800	-10	2,785	+70	1,560	-90	5.6	±0
DOBLO MAXI	4,770	+280	1,850	-10	1,870	+60	2,975	+260	1,660	+100	5.8	+0.2

リアドア比較



KANGOO



DOBLO

シート比較

- 助手席 -

KANGOO



◆助手席は倒せないで、
助手席背もたれまでは約1.8m

DOBLO



◆助手席が倒せるので、長尺物が積載できる
DOBLO: 2.7m MAXI: 3.06m

シート比較

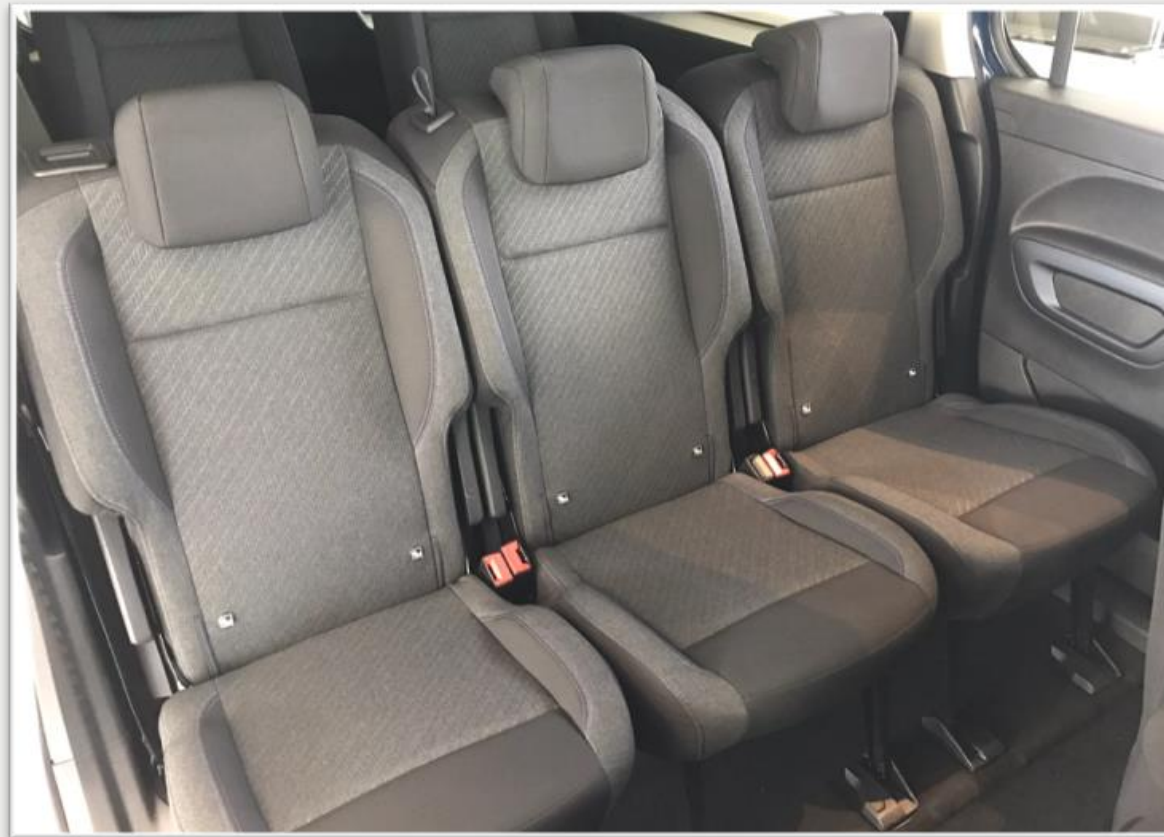
- リアシート -

KANGOO



◆後席は3席独立 6:4分割可倒式

DOBLO



◆後席は3席独立 各席可倒式

後方視認性比較

KANGOO



DOBLO



主な装備



インパネアッパーボックス
12V電源ソケット×1 USBポート×2



ワイヤレス充電



チャイルドミラー



フロントオーバーヘッドコンソール



ハンズフリーカードキー



シートバックトレイ



ダッシュボードトレイ

Renault KANGOO

DOBLOの押しポイント



- ・さり気なく小粋でセンスの高さがプラスされている内外装。
- ・ロングホイールベースを活かした後席の足元スペースの広さと多彩な収納スペース。
- ・日本の駐車場環境では重宝する、窓が独立して開閉するリアオープニングガラスハッチ。
- ・130ps／300Nmの1.5Lターボディーゼルと8速ATの組み合わせによる、パフォーマンスと燃費のバランスの良さ。
- ・MPVながらFIATのハッチバックモデルを彷彿とさせる、軽快でキビキビとしたハンドリング。

ステランティス フレンチブランドとの比較



CITROËN BERLINGO



PEUGEOT RIFTER



DOBLO

“趣味を堪能するオトナの遊びゴコロを楽しめるクルマ”
「ジブン時間」がキーワード



BERLINGO

“ファミリーや仲間とアウトドアで楽しく遊べるクルマ”をアピール
広さと使い勝手のよさを強調



RIFTER

“都会的でクールなクルマ”のイメージをアピール
遊びのギアとしての使い勝手のよさをキーにしていない

CITROEN BERLINGO



モータージャーナリスト 山本シンヤ
日本・カー・オブ・ザ・イヤー 選考委員
ワールド・カー・アワード 選考委員

プロフィール

- ・ルノー カングー人気に対抗するために開発されたシトロエン最小のMPVで、初代は1996年に登場。
- ・車名はフランス語で「小型の容器」を意味する「BERLINGOT」にちなんでつけられた。
- ・現行モデルは3代目だが、日本には初導入となる。商用仕様（ベルランゴ・バン）が独立したため、初代・2代目よりも乗用車系に近いデザイン／キャラクターが与えられる。
- ・エクステリアは基本フォルムをFIAT・DOBLO／プジョー・リフターと共通ながらも、独創的なフロントマスクとサイドのエアバンプなどにより、一目でシトロエンだと解るデザインだ。
- ・インテリアはシンプルで機能的なデザインながらも内装色でシトロエンらしさを演出。
メーターはシンプルなアナログ式だがダイヤル式シフトは先進性を感じさせる。
シートはDOBLO／リフターと同じデザインながらも、座り心地のチューニングなどはシトロエン独自設定となっている。
- ・パワートレインは130ps／300Nmを誇る1.5Lディーゼルターボのみの設定。
クロスレシオの8速ATとの組み合わせに加えて、1680kg（7人乗り）と見た目よりも軽量車両重量から、動力性能は十分以上のパフォーマンスを備える。
- ・プラットフォームはPSAグループ（現ステランティス）が開発した「EMP2」を採用。
サスペンションはコイル式ながらも、ゆったりしたボディコントロールと路面からのアタリの柔らかさなどは、ハイドロニューマチック時代の往年のシトロエンを思い出す。

総合的に見ると、見た目は個性的だが中身は骨太な直球勝負のミニバンに仕上がっている。

これまで日本市場ではある意味「マニア向け」だったシトロエンを、より身近にしてくれる存在と言えるかもしれない。

PEUGEOT RIFTER



モータージャーナリスト 山本シンヤ
日本・カー・オブ・ザ・イヤー 選考委員
ワールド・カー・アワード 選考委員

プロフィール

- ・1996年に登場したパートナーが先祖となるプジョーのMPV。ちなみにシトロエン・ベルランゴとは兄弟関係となるモデルだ。
- ・現行モデルは3代目だが、日本には初導入となる。
従来モデルは乗用／商用モデル共に同じ名称（パートナー）だったが、現行モデルは乗用車モデルが独立し「リフター」と名乗る。
- ・エクステリアの基本フォルムはDOBLO／シトロエン・ベルランゴと共通。
フロントマスクでプジョーらしさを演出するが、最新モデルのそれとはデザインは若干異なる。
ちなみにボディ下部のクラディング処理からも解るようにミニバンとSUVのクロスオーバー的な立ち位置だ。
- ・インテリアのセンターコンソール周りはDOBLO／シトロエン・ベルランゴと共通デザインだが、
運転席周りはリフター専用で、小径ステアリングホイールの上からメーターパネルを臨む「PEUGEOT i-Cockpit」となっている。
シート形状は兄弟で共通だが、こちらも座り心地などのチューニングはプジョー独自となっている。
- ・パワートレインは130ps／300Nmを誇る1.5Lディーゼルターボにクロスレシオの8速ATの組み合わせ。
FF駆動ながらも路面状況に応じて駆動輪を適切にコントロールする「アドバンス・グリップ・コントロール」や
急斜面で走行サポートを行なう「ヒルディセントコントロール」も用意される。
- ・EMP2のプラットフォームは兄弟車共通ながらも、専用サスペンションと大径タイヤ（オールシーズン銘柄）の採用により最低地上高を引き上げた
フットワーク系はリフター独自。見た目だけでなく走りの部分でもシッカリとSUVテイストがプラスされている。

総合的に見ると、ミニバンの利便性とミニバンをちょっと超えた機動性を両立と、意外とありそうでないキャラクターを備えた一台。

例えるならばフランス版「三菱デリカD5」と言ってもいいかも。

価格比較



5人乗り

DOBLO
¥ 3,990,000

7人乗り

DOBLO MAXI
¥ 4,290,000



BERLINGO
¥ 4,227,000
¥ 4,349,000

BERLINGO LONG
¥ 4,433,000
¥ 4,554,000



RIFTER GT
¥4,368,000

RIFTER LONG GT
¥4,550,000

デザイン比較

DOBLO



BERLINGO



RIFTER



デザイン比較

DOBLO



BERLINGO



RIFTER



コックピット比較

BERLINGO



DOBLO



RIFTER

"i-Cockpit"



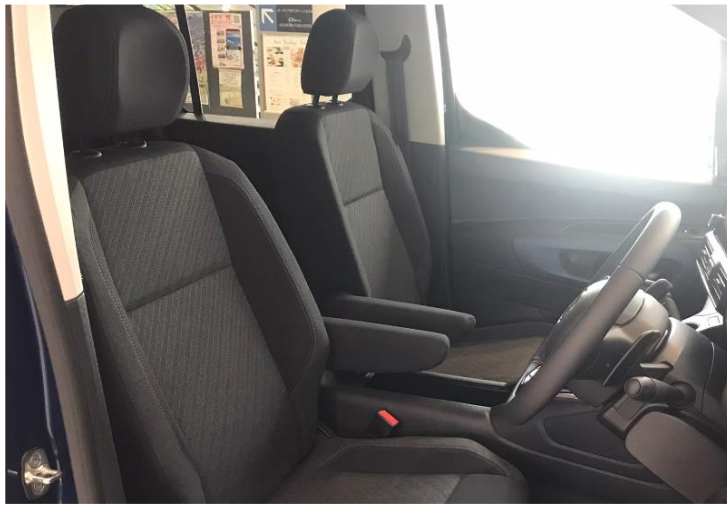
アドバンスドグリップコントロール

シート比較

BERLINGO



DOBLO



RIFTER



5人乗り収納比較

BERLINGO



RIFTER



DOBLO



サイズ比較

車種	全長 mm		全幅 mm		全高 mm		ホイールベース mm		車重 kg		最小回転半径 m	
DOBLO	4,405		1,850		1,800		2,785		1,560		5.6	
BERLINGO	4,405	±0	1,850	±0	1,850	+50	2,785	±0	1,600	+40	5.6	±0
RIFTER GT	4,405	±0	1,850	±0	1,880	+80	2,785	±0	1,650	+90	5.6	±0
DOBLO MAXI	4,770		1,850	±0	1,870		2,975		1,660	±0	5.8	
BERLINGO LONG	4,770	±0	1,850	±0	1,870	±0	2,975		1,660	±0	5.8	±0
RIFTER LONG GT	4,760	-10	1,850	±0	1,990	+120	2,975		1,770	+110	5.8	±0

CITROEN BERLINGO

DOBLOの押しポイント



- ・個性はBERLINGOだが、シンプルで合理的なデザインながらも、FIATらしい元気な印象が強いエクステリア。
- ・シックなイタリアンコーディネートは日本の街にも溶け込みやすい上に、長く使っても飽きがこないはず。
- ・居住性の高さや収納スペースは兄弟車だけあり共通だが、内装色や細部のコーディネートでシックなイタリアンを演出する。
- ・メカニズムはハードこそ共通だが、パワートレイン／フットワーク共にフィアットらしい元気で活発なチューニングに仕上がっている。

PEUGEOT RIFTER

DOBLOの押しポイント



- ・SUVらしい力強さや個性はあるものの、フランス車らしからぬ無骨なデザイン。洗練度ではDOBLOの方が確実に上回る。
- ・「PEUGEOT i-Cockpit」はデザイン的には個性的ではあるものの、操作性視認性の面では他銘柄からの乗り換え時は違和感が残る。
- ・居住性の高さや収納スペースは兄弟車だけあり共通。インテリアコーディネートは良く言えばシックだが、悪く言えば無個性
- ・フットワークはミニバン+クロスオーバーのキャラクターが与えられているものの、駆動方式がFFのみのため中途半端な印象は否めない。

国産 ミニバン比較

NISSAN SERENA e-POWER



TOYOTA SIENTA



★国内の新車購入者を対象としたお客様調査(2021年)

●国産ミニバンユーザーのスタイリング満足度は明らかに低い

	CITROËN BERLINGO	PEUGEOT RIFTER	RENAULT KANGOO	TOYOTA SIENTA
スタイリングの満足度	62.1%	41.6%	62.2%	10.4%

●趣味のキャンプは国産ミニバンユーザーの約4倍

	CITROËN BERLINGO	PEUGEOT RIFTER	RENAULT KANGOO	TOYOTA SIENTA
キャンプ	52.3%	47.6%	42.8%	12.3%

●輸入車MPVの購入理由はスタイリングとイメージ重視

	CITROËN BERLINGO	PEUGEOT RIFTER	RENAULT KANGOO	TOYOTA SIENTA
スタイリング	56.7%	38.0%	48.1%	6.1%
イメージ	13.9%	15.3%	6.1%	0.8%

価格比較

DOBLO	DOBLO ¥ 3,990,000	DOBLO MAXI ¥ 4,290,000
NISSAN SERENA 7人乗り/8人乗り	2WD ¥2,768,700~¥4,798,200	4WD ¥3,034,900~¥3,933,600
TOYOTA SIENTA 5人乗り/7人乗り	ハイブリッド ¥2,870,000~¥3,068,000	ハイブリッド ¥ 2,910,000~3,108,000

※SERENA7人乗りは最上位グレードe-POWER LUXIONのみ

サイズ比較

車種	全長 mm		全幅 mm		全高 mm		ホイールベース mm		車重 kg		最小回転半径 m	
DOBLO	4,405		1,850		1,800		2,785		1,560		5.6	
DOBLO MAXI	4,770	+365	1,850	±0	1,870	+70	2,975	+190	1,660	+100	5.8	+0.2
SERENA e-POWER LUXION	4,765	+360	1,715	-135	1,885	+85	2,870	+85	1,850	+290	5.7	+0.1
SIENTA	4,260	-145	1,695	-155	1,695	-105	2,750	-35	5人乗り 1,370	-190	5.0	-0.6
									7人乗り 1,650	+90		

SERENA e-POWER 5つのアピールポイント

1 ゆったり寛げる広い室内



- ・ 家族全員がゆったり寛げる室内空間クラスNo.1
- ・ 運転席と助手席間の移動のしやすさ
- ・ 3列目にもシートスライド機構を標準装備

4 先進装備



2 使い勝手のよさ



- ・ ヒトやモノに合わせた多彩なシートアレンジ
- ・ 豊富な収納スペース
- ・ クルマ酔い軽減対策

5 パワフルな加速性能



3 高級感のあるインテリア



1.4ℓ エンジン：最高出力72kW（98ps）
最大トルク123Nm
モーター：最高出力120kW（163ps）
最大トルク315Nmを組み合わせた
第2世代「e-POWER」を搭載
よりパワフルで気持ちの良い加速性能を発揮するとともに、遮音性能を高めることで優れた静粛性を実現

SERENA e-POWER ユーティリティ

デュアルバックドア



ハンズフリーオートスライドドア（両側）



3列目からウォークスルーできる



9.5インチゴルフバック4個が縦に積める



2列目3列目シートをフルフラットにできる



26インチ自転車は前輪を固定してそのまま積める



2列目は超ロングスライドできる



NISSAN SERENA

DOBLOの押しポイント



- ・ 煌びやかさではSERENAが上だと思うが、それ以外は……。シンプルながらも嫌味のない個性を備えたDOBLOのセンスの良さが光る。
- ・ 先進性と言う意味ではSERENAが確実に上だが、日常で使うことを考えると、少々装備は過剰な感も否めない。
- ・ シートアレンジなどはSERENAの方が優れる部分があるが、「乗員をシッカリ座らせる」と言うクルマの基本の部分を見ていくと、DOBLOの優位性は一目瞭然だ。
- ・ SERENAのプラットフォームは約15年ほど前に開発されたものがベースで、時に改良は加えられているものの、走りの基本となる体幹の進化は見られない。
(プラットフォームは、走る／曲がる／止まるの基本性能に直結)
※SERENAがグローバルモデルではないこと、SERENAユーザーは広さと使い勝手優先で走りの性能や楽しさをそこまで求めていないことなどが、日産が新開発に着手しない理由と推測される。

TOYOTA SIENTA 5つのアピールポイント

1 TOYOTA最小ミニバンだが室内は余裕の広さ



- ・コンパクトミニバン トップレベルの前後席間距離
- ・ウォークスルーで車外に出ることなく移動できる

2 運転しやすい



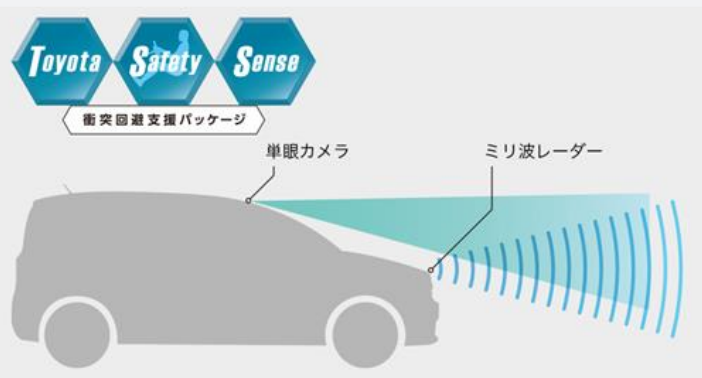
- ・車両感覚が掴みやすい
- ・最小回転半径5mで取り回しがラク

3 経済性

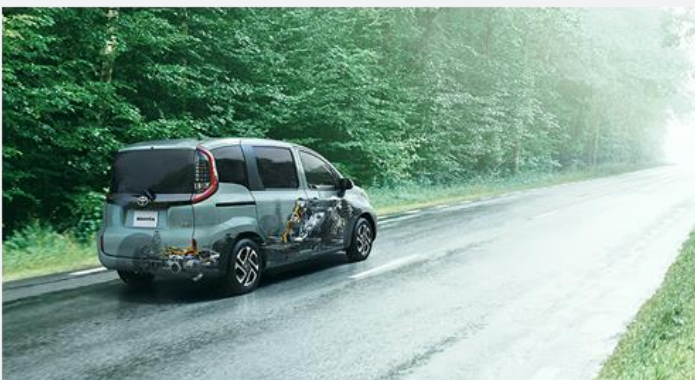


- ・WLTCモード
HYBRID 2WD 28.2km/L~
HYBRID E-FOUR 25.3km/L~

4 先進の駐車支援/充実した安全装備



5 悪天候でも安心して走れるE-Four（電気式4WDシステム）



1.5ℓ 直列3気筒エンジン：
最高出力67kW（91ps）最大トルク120Nm
Fモーター：最高出力59kW（80ps）
最大トルク141Nm Rモーター：2.2kW（3.0ps）
ニッケル水素電池6.5Ah（容量）を組み合わせた
ハイブリッドシステム

ユーティリティ

低床＆フラットフロア



リヤアシストグリップ



タンブル機構付セカンドシート（7人乗り）



フロントシートウォークスルー



ハンズフリーデュアルパワースライドドア



TOYOTA SIENTA

DOBLOの押しポイント

- ・エクステリアは欧州系を匂わせる個性を身に纏うものの、残念ながら“本物”の欧州車との違いは明らかである。
- ・巧みなパッケージによりボディサイズを考えると居住性は高いレベルだが、絶対的な寸法を見ていくと、ひとクラスの上の余裕があることを実感する。
- ・SERENAと同じで、シート収納を含めたアレンジはカラクリのような感じだが、それが故にシートサイズが小さいので、座り心地・掛け心地は劣るのも事実だ。何を大事にするかで評価は変わる。
- ・ハイブリッドは加速とエンジン回転数がリンクしないフィーリングは好みが分かれる所。DOBLOのディーゼルは実用域の扱いやすさに加えて、高回転までスッキリ回るフィールも魅力の一つだろう。

